

アナログオーディオ&ゆとりライフマガジン

令和4年8月15日発行(年4回刊) 第18巻第4号通巻76号 ISSN1349-595X

季刊・アナログ

# analog

2022  
SUMMER  
vol. 76

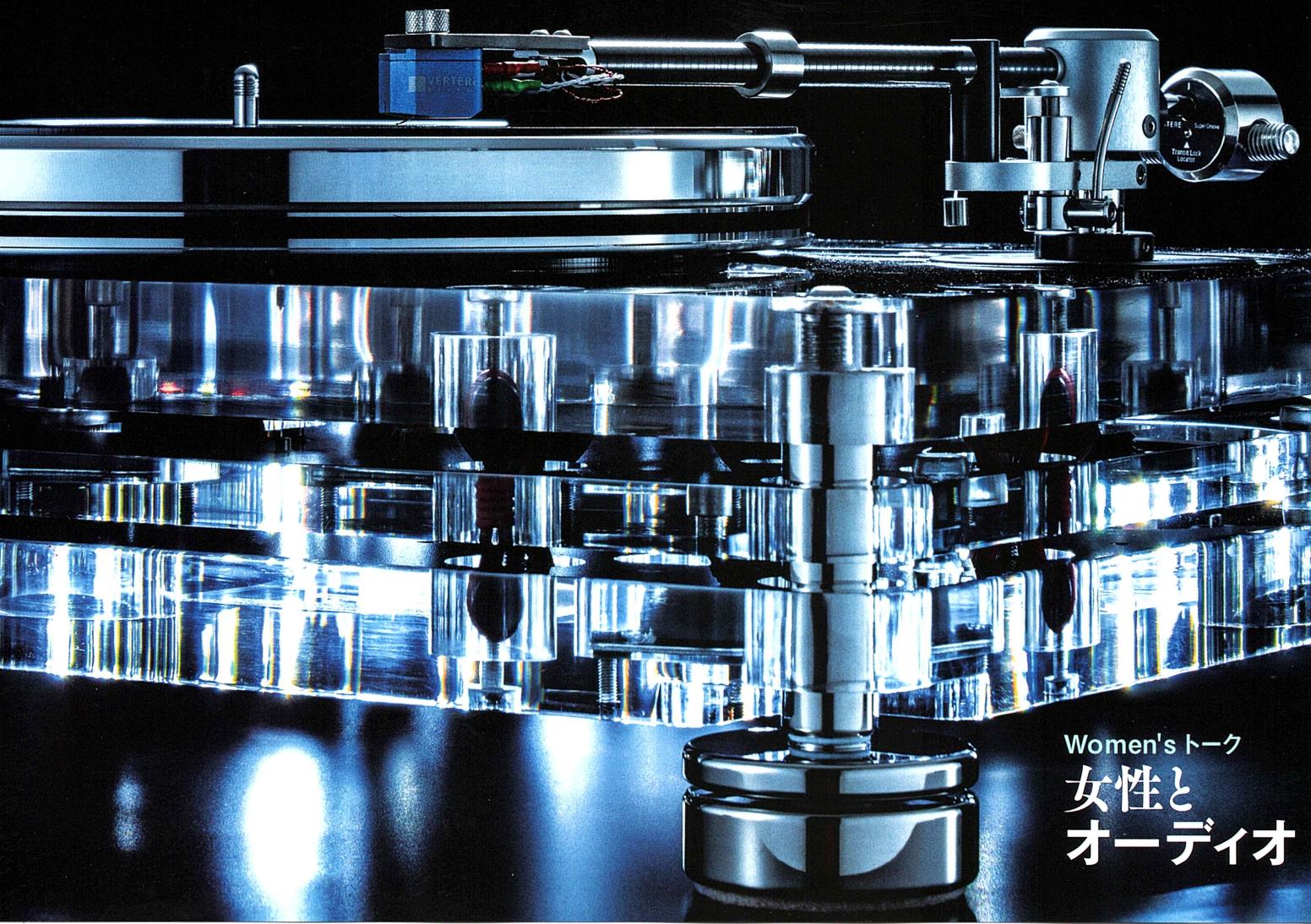
Phile  
web

個性で選ぶ上質モデル17選

## High-class カートリッジ

50周年企画  
Technics SL-1200

飯田有抄の  
入門から一歩進んだ  
プレーヤー選び



Women'sトーク

女性と  
オーディオ

進化を遂げた、新世代の接点安定剤“スーパーTMD”の魅力

# アナログまわりでも効果絶大

アンダンテラルゴの接点安定剤、TMDの進化モデルとして登場した「スーパーTMD」。前号では鈴木裕氏により速報にてその効果をお届け。さらに姉妹誌の『オーディオアクセサリー185号』ではそのサンプル品を特別付録。実際にその効果を確認することができるので、ぜひともお試しいただきたい。そして今回はこの「スーパーTMD」をアナログシステムまわりで体験してみる。井上千岳氏と炭山アキラ氏が自宅の愛用システムにて、その効果を体験。想像以上に効果を発揮したその模様をレポートしている。

## Andante Largo Super TMD

接点安定剤

「STMD-3」(3ml)=¥11,000(税込)

「STMD-10」(10ml)=¥27,500(税込)

※初回の表面処理用のボリッシュ「POL-5」(¥2,750／税込)



「スーパーTMD」は単なる接点復活剤やクリーナーではなく、そうした作用も含んだ総合的な接点安定剤である。顕微鏡レベルの微小な凹凸を埋めることで接触面積を拡大・安定させ、導通を大幅に改善する。すでにその効果はあちこちで取り上げられているが、ここではアナログ周りで試してみることにしたい。

まず外堀としてプレーヤーの電源ケーブル。信号から最も遠いところだがこれが利く。ある程度予期はしていたが、聴いてみるとそれよりずっと効果が大きいことに驚きを感じ得ない。

信号の通りがいい。バロックのそれぞれの楽器が楽々と鳴っているのがよくわかる出方で、ことに低音楽器が重さと深さを増して手応えと明瞭さが際立つている。独奏フルートは厚みが高まり、弦楽アンサンブルは鮮度と切れがいい。

ピアノはタッチの芯が強く骨格がしつかりしている。瞬発的なエネルギーが増大するのだ。



Text by  
**井上千岳**  
Chitake Inoue

また背景のS/Nがよく奥行が明瞭になる。オーディオも全体の力が向上し、一音々々の切れが深まって鮮度が増している。

ということで、次は逆に最も

核心的なヘッドシェルとトーンアームの接点である。

微弱なフォノ信号の最もデリケートな部分だけに、接触の良否は音質を大きく左右する。

案の定、立ち上がりのエネルギーがまるで違う。スルーレー

トが倍になつたかと思うほどハ

イスピードで瞬発的な伸びが大きく、鮮度の違いが明らかだ。

バロックの弦楽アンサンブルが伸びやかで瑞々しい余韻をたつ

ふりと持ち、解像度がてきめん

に向かってチエンバロなども明快。独奏フルートはフット息を継ぐときの息遣いまで感じられる。

ピアノも鮮烈さを増しているし、ノイズがどんどん落ちてタッチの感触が強く細かい。オーケストラは伸びと粘りが高まり、ダイナミズムが拡大している。

結局接点を通過する信号量が大きいのだ。それがエネルギーの増強につながり、立ち上がりが速く鮮度が高まるのである。

アナログにはほかにも微弱な

部分がたくさんある。カートリッジやリード線、フォノケーブルなど、ひとつ処理する度に新鮮な世界が開けてくる。結果はいつも期待以上である。

アナログにはほかにも微弱な部分がたくさんある。カートリッジやリード線、フォノケーブルなど、ひとつ処理する度に新鮮な世界が開けてくる。結果はいつも期待以上である。

「スーパーTMD」は『オーディオアクセサリー185号』で付録となつたから、早速試してみられた人も多いのではないか。私もまずデジタルプレーヤー周りに使ってその効果に仰天した

一人だ。こうなつたらもうアナログ周りも徹底的に攻めてやる

しかあるまいと、まずは自宅の

常用カートリッジとシェルの端子を処理してみた。細手の綿棒

で薬液を塗りつけて待つこと10分、清潔な綿棒で拭き取つて再

組立てし、早速レコードに針を落とす。こうなることは分かつたが、クリーニングもして

いないのにレコードの音溝がピカピカになつたから汚れも取れた

のであろうが、それにしてもこ

の差は極端だ。繊細極まる微小



Text by  
**炭山アキラ**  
Akira Sumiyama

信号を扱うだけに、アナログにクリーニングは一段とよく効くのである。

続いてシェルとアームのコネクター部を処理したら、ホールの残響が一気に深くなつた。しかも、空気そのものがきれいになつたかのような澄み切つた響きに痺れる。弦の艶、管の輝かしさも増したが、これは化粧でなく素肌の美しさである。

勢いに乗つてアームのコネクターを処理してみたら、確かに情報量は上がつたが、それより何より音場がどつしりと安定し、まるでホールの床が頑丈になつたような変化を聴かせる。一体何が原因なのか俄かには判断できないが、真のハイファイへ大きく近づいたといつてよい。

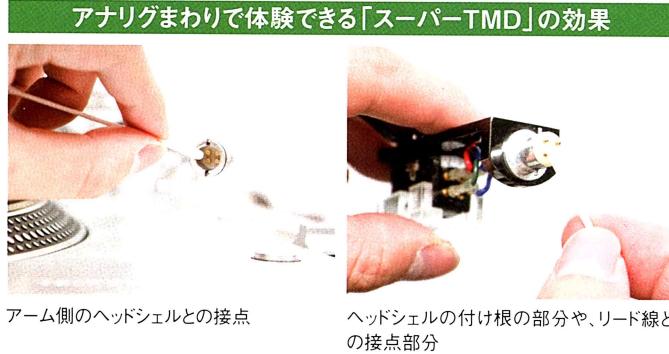
こうなるともう勢いは止まらない。お次はフォノケーブルの出力側とフォノイコのジャック

を処理したら、音が太くなつた

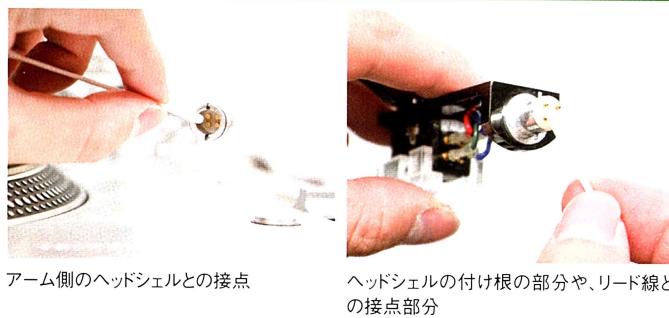
というか、音像の実在感が大幅に増し、骨太な音楽は耳を直撃するようになつた。これは凄い。

一気にフォノイコの出口側ジャックとインコネ两端、プリのジャックまで処理したら、おおこの濃厚かつ澄み切つた空気感の中に、まるで身を翻すかのように軽やかで弾むような音楽が響き渡る。長く使つているレフアレンスだが、これまで一度としてこんな情報量と楽しさを体験したことになかった。効果のほどはよく分かつたつもりでいたがやはりこの「スーパーTMD」、

やはりこの「スーパーTMD」、とてもない改善能力である。



アナログまわりで体験できる「スーパーTMD」の効果



## 立ち上がりのエネルギーがまるで違う

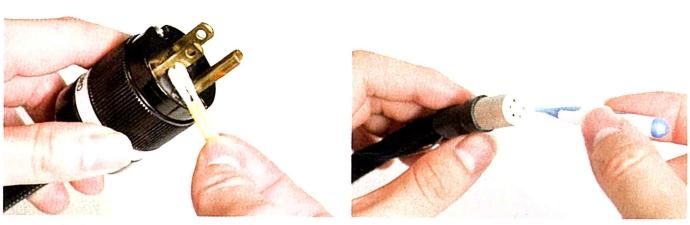
## 処理する度に新鮮な世界が開けてくる

## 未体験の情報量と音楽の楽しさを生む

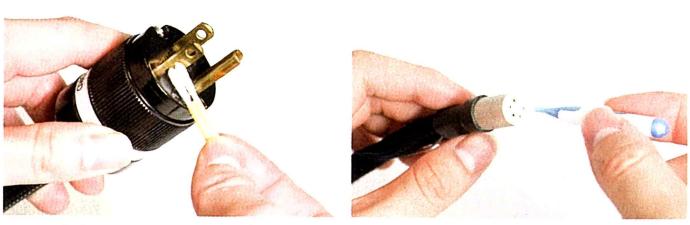
## 音溝がピカピカになつたような効果

立上りのエネルギーがまるで違う

未体験の情報量と音楽の楽しさを生む



アナログまわりで体験できる「スーパーTMD」の効果



アナログプレーヤーの電源ケーブルの接点

フォノケーブルの接点



AndanteLargo

# Grand Base

オーディオボード

●ラインアップ：「Grand Base 490」(490×400mm)=¥396,000／「Grand Base 540」(540×445mm)=¥451,000／「Grand Base 620」(620×517mm)=¥506,000 (ともに税込)

●カラーは棚板がダークマホガニー(写真のモデル)、アメリカンチェリー、ブラックオークの3色、フレームはブラック(写真のモデル)とシルバーの2色を用意



アキュフェースのパワーアンプ「P-4500」を設置して試聴する

## 1段式ラックの最高峰 “グランドベース”が登場

アンダントラルゴの起源ともいえるオーディオラック。その最高峰となるグランド・シリーズより待望の1段式モデル「グランドベース」が登場した。同社が2007年に誕生した「リジッドテーブル」から2020年に登場した「グランドタワー」まで、「軽量」「堅牢」「コンパクト」「制振」の設定思想を一貫する同社のポリシーが凝縮された1台。林正儀氏がその音質効果を伝える。

Text by  
**林 正儀**  
Masanori Hayashi

「強靭さ」と「静けさ」はシリーズ中で最強レベル

「世界一静かな多段式オーディオラックといえば「グランドタワー」だが、そのグランド・シリーズに待望の1段式が登場。その名は「グランドベース」である。1段仕様の製品にもあえてモデル名を受けたのは性能への搖ぎない信念があるからだ。同社のオーディオラックの設計ポリシーである「軽量」「堅牢」「コンパクト」「制振」からすると、ぐつとリジッド(強固)な方に寄せた設計思想だが、その徹底ぶりには妥協がない。

「グランドベース」は多段式の「グランドタワー」の上部と機構がソックリだ。超々ジュラルミン製のコーナージョイントや無共振のチタン製パイプ(キャンセルボールやシリコン&ウール充填も同様)、スペイクを上下に設けて棚板を受けるなど、理想の点接触を実現している。本体を持ち上げると意外に軽く、どの部分をノックしても鳴きは皆無だつた。これはすごい。シンプルであるがゆえに、強靭さや静けさは「グランドタワー」を越えるはずだ。

ここでラインアップを見よう。小、中、大の3タイプ。「490」「540」「620」で、そのモデル名は棚板の幅を表すからね。

ここでは「グランドベース」をアキュフェースのパワーアンプ「P-4500」に使用。その音質は安定度やS/Nなど、これまで聴いたボードの中でも群を抜くクリティカルだ。

ここまで静かになるものか。アンプの微振動も何もかも、大地アースのように吸い取られる。音楽の必要成分のみが、きれいにレンジを拡張し、サウンドはピュアかつアンプの反応が速くなる。ピアノや声楽はタッチや余韻が実にきれいだし、ストレートでナチュラルな音の出方だが、一転してジャズは野獣のような猛々しさやエネルギーの噴出も見せるのだ。管球式パワーアンプでも試したが喜々としてくれた。「グランドベース」のインパクトは大きい。パワーアンプ用に「重たいオーディオボードを使う時代は終わつた！」と確信した。

は「大」や「中」がベスト。LPやプリアンプCDプレーヤー、電源まわり等だと「小」が最適という具合だ。

音楽の必要成分のみを抽出群を抜くクリティカル